

令和4年度 全国学力・学習状況調査 南富良野町の結果について

I 調査の概要

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査対象学年

- 町内小学校第6学年の児童、町内中学校第3学年の生徒 原則として全児童生徒

3. 調査内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力等に係る内容等

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)「国語・算数(数学)の勉強は好きですか」「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学校で友達と意見を交換する場でICT機器をどの程度使っていますか」など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)「授業研究や事例研究など実践的な研究を行っていますか」「ICT機器を授業でどの程度活用しましたか」「前年度までに学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか」など

4. 調査の期日 令和4年4月19日(火)

5. 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

区 分	実 施 率	参加児童数(小)	参加生徒数(中)
全国(公立)	91.4%	965,761人	892,585人
全道(公立)	98.8%	34,310人	32,940人
南富良野町 全校	81.0%	6人	11人

※全国・全道の実施者数は教科ごとに異なるため、最大児童生徒数を記載

II 調査の結果

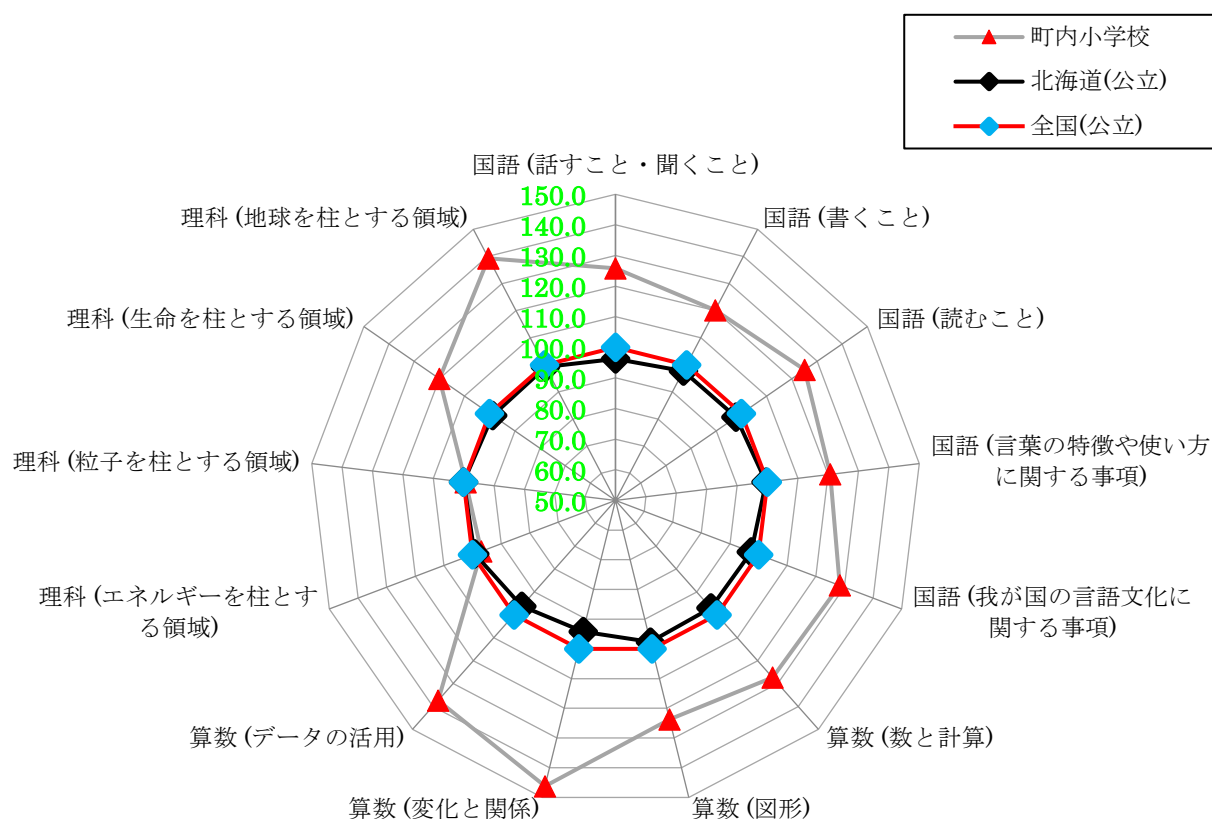
本調査で結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

1. 児童生徒の学力の状況について

(1) 小学校（平均正答率）

教科	全道平均	全国平均	南富良野町	全国との比較
国語	64.3	65.6	80.7	↑15.1
算数	61.3	63.2	83.1	↑19.9
理科	62.9	63.3	72.4	↑9.1

	国語	国語	国語	国語	国語	算数	算数	算数	算数	理科	理科	理科	理科
	(話すこと・聞くこと)	(書くこと)	(読むこと)	(言葉の特徴や使い方に 関する事項)	(我が国の言語 文化に関する 事項)	(数と計算)	(図形)	(変化と関係)	(データの活用)	(エネルギーを 柱とする領域)	(粒子を柱と する領域)	(生命を柱と する領域)	(地球を柱と する領域)
全国(公立)	66.2	48.5	66.6	69.0	77.9	69.8	64.0	51.3	68.7	51.6	60.4	75.0	64.6
北海道(公立)	63.7	47.4	65.2	68.7	75.9	67.7	62.5	48.3	66.1	51.2	60.4	74.1	64.1
町内小学校	83.3	58.3	83.3	83.3	100.0	88.9	79.2	75.0	94.4	50.0	60.0	90.0	90.0



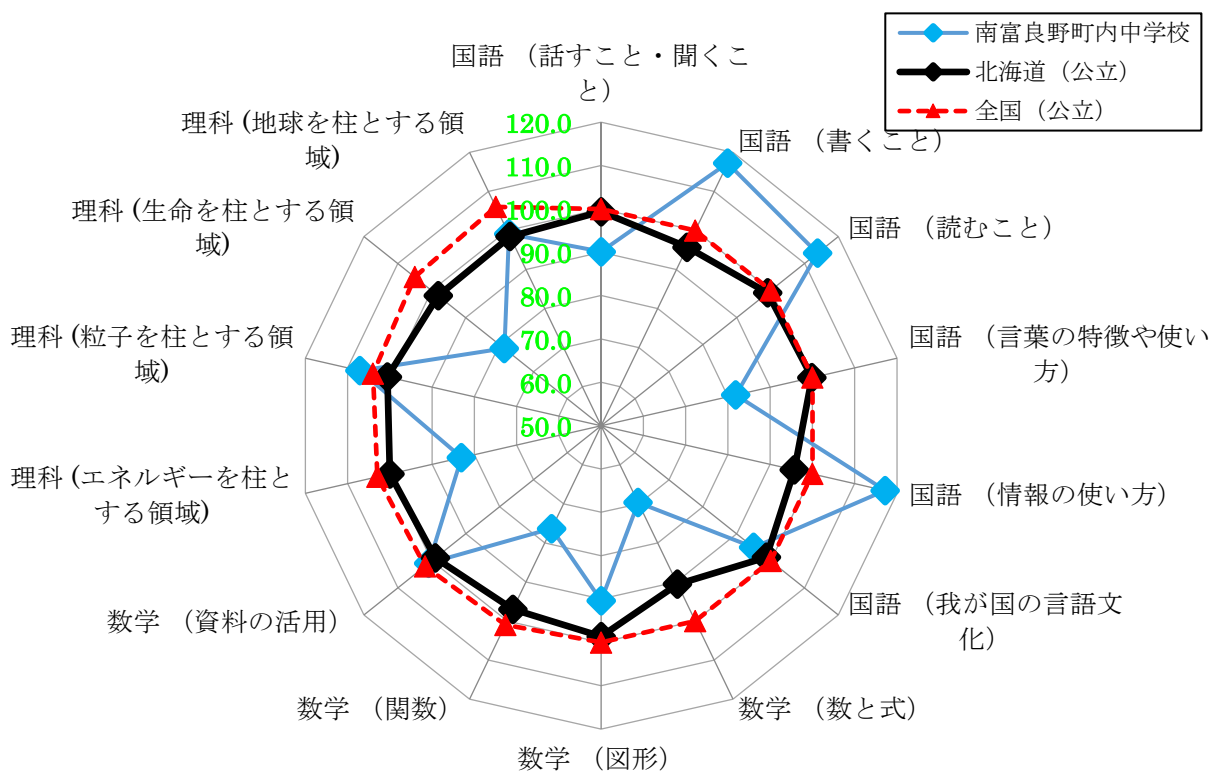
小学校は、全ての教科において全国平均正答率を上回っている。

なお、国語・算数では全項目で全国平均正答率を上回っているが、理科の「粒子を柱とする領域」及び「エネルギーを柱とする領域」については、全国平均正答率を若干下回っている。

(2) 中学校 (平均正答率)

教科	全道平均	全国平均	南富良野町	全国との比較
国語	68.6	69.0	64.3	↓4.7
数学	49.3	51.4	42.1	↓9.3
理科	49.0	49.3	45.7	↓3.6

	国語	国語	国語	国語	国語	国語	数学	数学	数学	数学	理科	理科	理科	理科
	(話すこと・聞くこと)	(書くこと)	(読むこと)	(言葉の特徴や使い方)	(情報の使い方)	(我が国の言語文化)	(数と式)	(図形)	(関数)	(資料の活用)	(エネルギーを柱とする領域)	(粒子を柱とする領域)	(生命を柱とする領域)	(地球を柱とする領域)
全国(公立)	63.9	46.5	67.9	72.2	46.5	70.2	57.4	43.6	43.6	57.1	41.9	50.9	57.9	44.3
北海道(公立)	63.5	44.5	67.3	72.1	44.5	69.3	52.0	43.0	42.3	56.5	41.9	51.2	56.8	43.6
町内中学校	57.6	54.5	77.3	59.1	54.5	66.7	40.0	39.4	33.3	57.6	34.8	54.5	45.5	43.9



中学校は、全ての教科において全国平均正答率を下回っている。

国語では、「言葉の特徴や使い方」、数学では「数と式」「関数」、理科では「エネルギーを柱とする領域」「生命を柱とする領域」が苦手である。

2. 児童生徒質問用紙の傾向について

※共通質問69項目のうち、「生活習慣の基本に関わるもの」「家庭と学校の連携が必要なもの」を抜粋しています。

※網掛けは、全国平均より上回っている項目を表しています。

※数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

(1) 家庭での生活・学習について

質 問 事 項	全 国	小学校	全 国	中学校
朝食を毎日食べている	94.4	100.0	91.9	100.0
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	81.5	100.0	79.9	81.8
毎日、同じくらいの時刻に起きている	90.4	100.0	92.2	90.9
家で、計画を立てて勉強している	71.1	83.3	58.5	72.8

◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どのくらい時間勉強しますか（学習塾でしている時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

	3時間 以上	2時間～ 3時間	1時間～ 2時間	1時間 未満	全くしない
全 国	11.3	13.8	34.3	36.3	4.3
小学校	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
全 国	9.9	25.3	34.3	25.5	5.0
中学校	0.0	9.1	54.5	27.3	9.1

家庭での生活・学習について、小学校・中学校ともに基本的な生活や家庭での学習習慣が身に付いているが、特に小学校では規則正しい生活が送れている。

小学校は全員が1時間以上学習しているが、中学校は3割強が1時間未満の学習時間であることから、全国平均正答数を下回っている要因になっていると思われる。

(2) 学校での生活・学習について

質 問 事 項	全 国	小学校	全 国	中学校
国語の勉強は好き	59.2	66.7	61.9	63.7
国語の授業の内容はよく分かる	84.0	83.3	81.2	81.8
算数・数学の勉強は好き	62.5	83.3	58.1	54.6
算数・数学の授業の内容はよく分かる	81.2	83.3	76.2	81.9
理科の勉強は好き	79.7	83.3	66.4	90.9
理科の授業の内容はよく分かる	88.5	83.3	75.2	90.9

学習では、「勉強は好き」が小学校は全国平均よりも上回っているが、中学校は数学が全国平均よりもやや下回っている。

「授業の内容はよく分かる」が小学校・中学校とも高い数値となっているが、特に中学校は学力テストの結果に結びついていない。

(3) 関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	全国	小学校	全国	中学校
自分には、よいところがあると思う	79.3	100.0	78.5	81.8
新聞を読んでいる	13.8	0.0	9.4	0.0
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	96.8	100.0	93.4	100.0
人の役に立つ人になりたい	95.1	100.0	95.0	100.0
将来の夢や目標を持っている	79.8	100.0	67.3	54.6

小学校・中学校ともに「新聞を読んでいる」が0%となっている。

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は全員が肯定的な意見となっている。

小学校・中学校ともに「自分には、よいところがあると思う」が全国平均よりも上回っており、自分に自信が持てているものと思われる。

「将来の夢や目標を持っている」については、小学校は高い数値となっているが、中学生は低くなっており、成長に連れて目標が持てなくなっていることが見受けられる。

(4) 読書について

◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

	2時間以上	1時間～2時間	30分～1時間	10分～30分	10分以下	全くしない
全 国	7.2	10.1	19.1	23.2	14.2	26.2
小学校	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	16.6
全 国	4.6	7.8	14.9	21.3	12.3	39.1
中学校	9.1	27.3	9.1	18.2	0.0	36.3

小学校は読書時間が30分以下の児童が2/3であり、あまり読書がされていない実態となっている。

中学校は30分以下が5割強であり、部活動や学習時間に時間を取られている事情はあるものの、読書をしている生徒とあまりしていない生徒の差が出ている。

Ⅲ 課題と今後の取組

1. 小学校

○課題

- ・国語「書くこと」について、全国平均正答数よりも上回っているが、正答率が低い。
- ・理科「エネルギーを柱とする領域」及び「粒子を柱とする領域」については、全国平均正答率を若干下回っており、正答率も低い。
- ・南富良野町全体で取り組んでいる全員活躍型授業の成果により、「よく分かる」が国語・理科が83.3%と高い数値になっているが、理科の正答率が低い。

○今後の取組

- ・1人一冊の本を机の中に常備し、いつでも読書できる環境をつくり文章に触れる機会を増やす。
- ・朝学習や放課後学習などで学習ドリルの書き問題に取り組むことにより、書く力を身に付ける。
- ・全校児童で「数と計算」領域のプリントに取り組み、数の概念形成や計算力を育む。
- ・学校改善プランを作成し、修正を重ねて学校全体で授業改善に取り組む。
- ・学習のねらいに即して必要な語彙や言葉を取得させる取り組みを行う。
- ・南富良野町学習スタンダードに則り、小規模複式学級に合うスタイルを構築し、実践を行う。
- ・家庭学習について保護者・児童に呼びかけを行い授業だけでなく予習・復習を行うようPTA等の会議で提起のうえ、実践するよう周知する。
- ・児童どうしの学び合い及び教師との学び合いを大切にし、一方的に伝えるのではなく伝え合うことを大切にした「対話的な学び」の実践を図る。

2. 中学校

○課題

- ・国語は全国平均正答数を下回っており、「話すこと・聞くこと」「書くこと」が苦手である。
特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均正答率よりも1割強低い。
- ・資料を活用して文章を書くことは概ね出来ているが、説明に必要な事柄の取捨選択が不十分なところがある。
- ・数学は全国平均正答数を下回っており、関数のうち事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが非常に苦手である。
- ・学習内容を発展させた問題については、正答率が低くなっている。
- ・理科は全国平均正答数を下回っており、「エネルギーを柱とする領域」及び「生命を柱とする領域」が全国平均正答率よりも1割程度低い。
- ・観察・実験の結果を分析し、解釈することに課題がみられる。
- ・令和3年度よりも学習の時間が減っており、また、読書の時間が少なくなっている。
- ・家庭学習が計画的に進められておらず、1日当たりの学習時間が1時間より少ない生徒が4割にも満たない。

○今後の取組

- ・国語では、一層意識して話す機会を増やすことや、資料の分析や活用する活動機会を設けたり、表現技法を活用する活動を増やしたりする。
- ・数学では、習得した知識や技能を組み合わせるような問題を扱ったり、考えを記述する機会を増やしたりして、他の学習領域でも記述出来るように伸ばす。

・理科では、自分の予想が正しいかどうかを検証するための実験の方法を計画し、実際に実験を行う場面を設定する。

・引き続き外部講師による学力向上講習を実施する。

・土曜授業・学力チャレンジデーを設置し、基礎的・基本的な内容の更なる定着を図る。

・家庭学習の内容を向上させ、学習時間について増えるよう内容の充実化を図り、計画性を持たせるようにする。

・1人1台端末を積極的に活用し、学校及び家庭学習等で調べ学習を推奨する。

また、家庭学習の素材として学習支援ソフトの積極的活用を推進する。

IV 家庭へのお願い

1. お子さんが望ましい生活習慣や学習習慣を身につけるために、お子さん中心の生活リズムをつくりましょう・また、積極的にお子さんと会話するなど、現状の把握に努めましょう。

2. テレビやビデオ、DVDの視聴やテレビゲーム、インターネット等に費やす時間については、各家庭でお子さんと話し合い、少しずつ減らしていきましょう。

3. 家庭学習は、学年×10分+10分に取り組みましょう。

学校での授業内容を定着させるには、学年×10分+10分の家庭学習が必要です。勉強する時間を決めて取り組むことのできる環境を親子で一緒に作りましょう。

(中学1年生は80分、中学2年生は90分、中学3年生は100分になります。)